



青空の下、風に揺れる真っ白いそばの花のじゅうたん記念撮影。ほのかな甘い香りにつつまれ、小鳥のさえずりがいつもより近くから聞こえてくる。



- 1 農業総合プロジェクトが開発した、地元産の紅いもで作った「ザルうどん」は、種処弁天で期間限定発売中。鮮やかな紫が特長。問 藤姐弁天 22-2280
- 2 農家の主婦たちで農産加工品を開発している「藤の会」が出品した手作りお菓子は、素朴な味が好評。
- 3 みんながお目当ての手間ひまかけた手打ちそば。

弁城産そば

農業総合プロジェクト会議発表 美と味への探究

愛でて、食して、ふれあい、楽しむ。
そばを通じた町おこしへのチャレンジ



小さくて可憐なそばの花。真っ白い花の下から鮮やかに実る赤い実は、やがて茶色に熟して収穫を待つ。

古 くは救荒植物として人びとの命をつなぎ、ある時は祝いの食物として喜びに華を添えた日本の伝統食。そば。その白いゆ

うたんが今年も上弁城集会所付近の田んぼ一面に敷きつめられました。10月21日に「そばの花フェスタ2007」が催され、町内外から500人以上が訪れました。フェスタを主催する、福智町農業総合プロジェクト会議は「農業で地域を活性化しよう」を合い言葉に、旧方城町で平成8年に発足。古くから日本人に愛され続けるそばに目を付けたのは事務局長の高津康則さん（見）でした。

「珍しいそばの花をたくさんの人に見てもらおう。収穫した実も味わってほしい」という提案がきっかけで、平成13年に栽培に取り組み、農業活性化と町のPRのためのイベント「そばの花フェスタ」がスタートします。

福智町に引き継がれたこのイベントも今年で7回目。舞台やゲート、出店など盛りだくさんの内容でした。中でも参加者の楽しみは、毎年恒例の手打ちそば。昨年収穫されたそばの実から作った手打ちそばは、しっとりとした歯ごたえと食感が特長。限定250食があったという間にお昼過ぎには完食しました。ま

た、人気を集める写真コンテストはフェスタとそばの花の風景をテーマにした作品が応募の規定です。かわいらしいそばの花に囲まれ、カメラマンは心を踊らせながらシャッターを押し、モデルは最高の笑顔でそれに応えています。

きれいな花を見て楽しみ、手打ちそばを味わうという、観賞と食の両面から町おこしにアプローチする「そばの花フェスタ」。やがて、ここに広がる真っ白い花は真っ赤な実を結びます。福智の景観にとけ込んだ伝統食の「美」と「味」を活かしたイベントも、毎年少しずつ大きくなる実を着実に結んでいます。



手打ちそばを披露するのは、昭和37年卒の方城中卒業生で組織する「ユートピア37」のみなさん。

【問い合わせ先】
福智町農業総合プロジェクト会議
事務局長：高津康則 22-0573



福智町農業総合プロジェクト会議会長
永末大介さん（弁城）
「このプロジェクト会議も今年で10年目を迎えました。自分たち自身も楽しみながら、たくさんの人に喜んでいただけるイベントや、町が元気になるような特産品開発にこれからも取り組んで行きたいと思っています。」